HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	刊行によせて
Author(s)	生越, 明
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 5
Issue Date	1998-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35347
Type	departmental bulletin paper
File Information	5_kankou.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

刊行によせて

技術部長　生越　明（農学部長）

平成９年１１月１７日、文部省から「国立大学、国立短期大学及び国立高等専門学校の技術専門官及び技術専門職員に関する訓令」（平成１０年４月１日実施）が出された。その内容は、国立大学等に技術専門官及び技術専門職員を置くことができ、技術専門官は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行なうとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行なう、技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行なうとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行なう、となっている。これらは技術職員をもって充てるとなっており、目下大学としての取り扱いを検討中である。これは、これまで要望してきた、技術系職員の処遇改善に役立つものと期待している。

農学部の大学院重点化が進行していることは周知のことであるが、第２の専攻、環境資源学専攻が平成１０年度予算政府案に乗せられた。この専攻は５基幹大講座と１協力大講座からなり、助手の振替えにより、教授２名、助教授２名の増になる。これらはそれぞれの大講座内の大学院専担分野を担当することになる。また、演習林の教官が協力講座である北方森林保全学講座に参加する。環境資源学専攻関係の大学院学生数が修士課程２６名から４８名、博士後期課程１３名から２３名に増加する。これにより農学部の教官の４分の３が大学院に移行する計算になる。また、臨時増募学生が１０名減少し、臨時増募教官も教授１名減となることも決定している。

さて、北海道大学農学部技術部は「研究・技術報告」第５号を発行する。技術部職員研修は技術部の主要な活動であるが、第６回が平成９年１０月２０、２１、２２日の３日間にわたり３６名の参加者を得て実施された。今回の特徴は農学部外の講師を多数お願いした点にある。終了後のアンケート調査によっても研修が有意義であることが認識されている。技術部運営委員会及び実行委員会を中心とした着実な活動の成果である。

技術部をめぐる情勢には厳しいものがある。国立大学農学系学部長会議では昨年度、附属施設の整備・充実についての要望書を文部省関係機関に提出し、その中で技術系職員に関する件を重点としたが、今年度も同様の要望書を提出した。その内容は、１．技術系職員の定員確保と増員、２．技術系職員の処遇改善及び研修制度の確立、３．教官組織の充実、４．建物・施設・設備の整備・充実である。

農学部は大変革の直中にある。農学部・農学研究科の発展に伴って、教育研究支援職員の果たす役割はますます重要である。技術部の今後の発展と各位のご健闘を祈るものである。

平成１０年２月